

## 2 本市の文化行政の現状と課題

### (1) 市民の文化芸術活動について

#### ① 現 状

市民アンケートによると、文化芸術活動をしている方が3割、活動に携わっていない方が7割という状況です。（資料2）活動を行わなかつた理由としては、「時間がない」「興味がない」と答えた方が多く、また、「いつ、どこでできるのか情報がなく、わからない」と答えた方がいました。（資料3）

活動する場としての施設については、施設数や利用率から見た場合、概ね充足している状況です。（資料4・資料5）

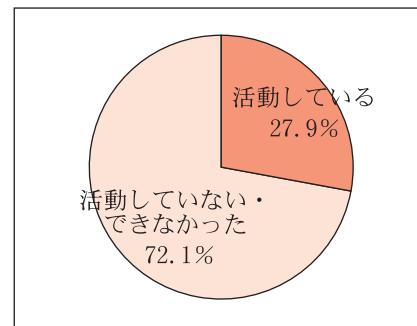
活動への財政的支援としては、市民文化祭や地区文化祭を開催する団体等に対して補助金を交付し、市民の文化芸術活動を支援しています。

また、市内には、尚美学園大学、東京国際大学、東邦音楽大学、東洋大学の4つの大学があり、これら大学との連携事業も行われています。なお、1,000人を超える留学生が市内で学んでいる状況です。

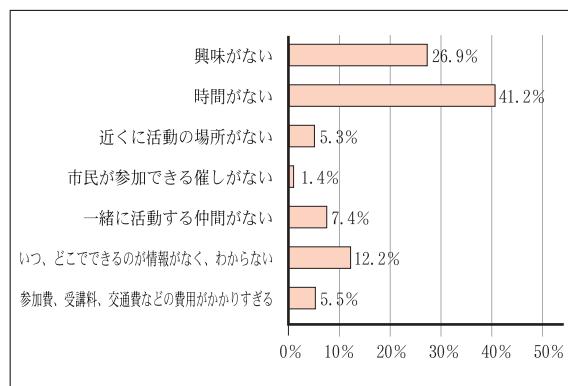
姉妹都市、友好都市（※9）として、国内外6つの都市と盟約を交わし、中学生の相互交流を行うなど、多文化交流の推進を図る事業を実施しています。

本市の新たな取組としては、産業観光館（※10）では市民の文化芸術活動の発表の場や文化芸術に触れる場として施設を活用し、市民と観光客との交流を促進する事業を計画しています。

資料2 市民アンケート結果  
「最近1年間の文化芸術活動経験」



資料3 市民アンケート結果  
「文化芸術活動を行わなかつた理由」



また、地域の文化を育むため、地域と大学が協力して、中学生を中心とした吹奏楽団を結成し演奏活動を行うようになり、地域文化が育まれるような新しい取組も実施されています。

資料4 川越市文化関係施設概要

区分	施設名称	供用開始	ホール 席数	会議室	和室	その他
文化施設	市民会館	S39	1,261	4	1	0
	やまぶき会館	H4	518	3	0	2
	西文化会館	S63	352	3	1	3
	南文化会館	H6	368	4	3	3
	川越駅東口 多目的ホール	H14	204	—	—	—
地域ふれあい センター	北部	H14	201	2	2	5
	東部	H20	200	2	0	2
公 民 館	(18館1分館 1分室の計)	—	—	63	27	35

※平成21年4月1日現在（高階市民センターを含む。）

公民館の“会議室”には、講座室及び相談室を含む。

公民館の“その他”には、実習室、音楽室、保育室、軽体育室等を含む。

資料5 市内文化施設等利用率

文 化 施 設 (4館の平均)	(全 体)	41.6%
	(ホー ル)	42.1%
地 域 ふ れ あ い セ セ ン タ ー (2館の平均)	(全 体)	30.5%
	(ホー ル)	62.4%
公 民 館 利 用 率 (21館の平均)		48.2%

(平成20年度)

※文化施設及び地域ふれあいセンターは、利用区分（午前・午後・夜間）による利用率。

※公民館については、全利用可能回数に対する公民館主催事業による使用を除いた利用の割合。

ただし、旧高階公民館は閉館以前の利用率を、高階市民センターは開館後の平成20年5月1日以降の利用率を計上。

## ② 課題

厳しさを増す財政事情の中で、市民の文化芸術活動を支援するためには、市民団体や大学等の多様な主体との協力・連携や、他の行政分野の施策との融合的な事業展開を増やしていく必要があります。活動を行うための施設についても大学をはじめとするさまざまな施設の有効活用の検討が必要です。

また、時間がないという理由で文化芸術活動ができない市民に対しては、事業の工夫と文化芸術活動支援のための適切な情報提供が必要です。

姉妹友好都市との交流に関し、より広く市民レベルでの交流につなげ、国際理解の促進を図っていく必要があります。また、留学生について、文化交流や多文化共生（※11）のための中心的な役割が期待されます。

## (2) 歴史的遺産の保存・活用について

### ① 現 状

本市には、国や県や市指定の数多くの文化財があります。また、伝統行事等については、文化財としての価値の高いものが数多く残っています。

蔵造りの町並みや時の鐘がある一番街周辺や大正浪漫夢通りなどにおいては、町並みの保存を目指した街路整備、電線類の地中化など、町並みの保存事業や景観の整備事業が活発に行われています。本市では、まちづくりと観光の視点で歴史的町並みを保存・活用するため、保存対策調査や家屋整備のための補助金を交付しています。

郷土に関する学習について、市立博物館では、子ども博物館教室やむかしの勉強・むかしの遊び展、土曜子ども体験などを学校教育と連携して開催するほか、文化の日記念事業として伝統芸能等（※12）の実演も実施しています。

また、公民館では地域に関する学習の推進を事業の柱の一つとして掲げ、市民が地域の歴史や文化を学ぶ講座を開催するとともに、受講者の自主的な学習の継続・組織化を支援しています。

### ② 課 題

現在、市内には、地域によってさまざまな伝統行事等（※13）が保存・伝承されていますが、その伝統行事等については後継者不足が指摘される中、まだ、未調査の地域が残されています。

多くの文化財を抱える本市ですが、この貴重な文化財を広く市民に周知し、市民と協働しながら、その活用を推進していくことが必要になっています。

また、特色ある歴史的景観が本市の魅力になっていますので、今後とも良好な景観の形成に努めていく必要があります。

### (3) 芸術の鑑賞機会の提供について

#### ① 現 状

本市は、県内で2番目となる市立美術館を設置しています。郷土ゆかりの作家の作品や市民の関心が高いジャンルや独自性を生かした展示により、川越ならではの芸術文化の発信に努めています。市立美術館の入館者数は、魅力ある特別展の開催などにより増加しています。

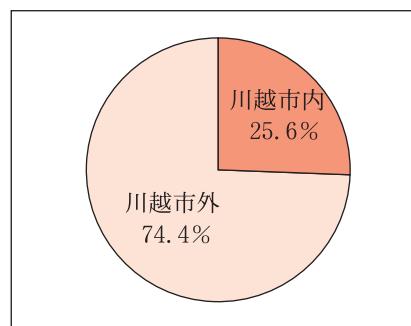
音楽や舞台芸術を鑑賞することができる施設については、稼働率と席数においては、他の中核市の施設との比較では充実している状況ですが、市民会館については老朽化が進んでいます。現在、西部地域振興ふれあい拠点施設（仮称）に新ホールの設置が予定され、新しい文化芸術の拠点として早期の建設が期待されています。

文化施設を中心とした音楽鑑賞や舞台芸術の鑑賞機会の提供については、現在、市の主催事業としては行っていません。民間事業者等が提供する催し物が主体になっています。

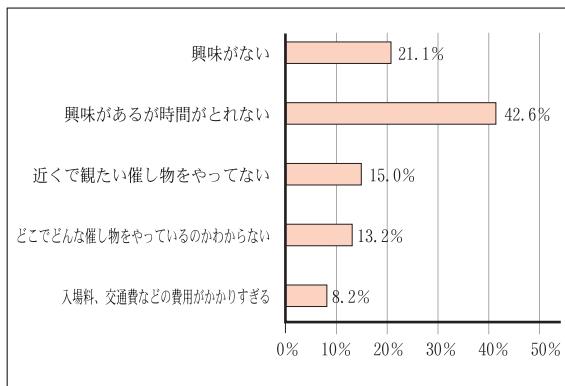
市民アンケートによると、市民の4分の3は何らかの芸術鑑賞をしていますが、そのうちの4分の3が、市外で鑑賞している状況です（資料6）。

一方、芸術鑑賞をしなかった・できなかった理由としては、「興味はあるが時間がとれない」という回答が4割以上を占めました。これに「興味がない」、「近くで観たい催し物をやっていない」という理由が続いている状況でした（資料7）。

資料6 市民アンケート結果「鑑賞した場所」



資料7 市民アンケート結果  
「鑑賞しなかった・できなかつた理由」



## ② 課題

新しい文化芸術振興の拠点として新ホールの設置が予定されており、市内の身近な場所でプロの芸術家などが提供する良質な芸術の鑑賞ができるような環境創造が望まれています。

- ※9 姉妹都市・友好都市：川越市は、異文化交流を推進し相互理解を深めるため、国内外の都市と姉妹都市提携を結んでいます。平成22年4月現在、国内3都市（福島県棚倉町、福井県小浜市、北海道中札内村）、海外3都市（オッフェンバッハ市（ドイツ連邦共和国）、セーレム市（アメリカ合衆国）、オータン市（フランス共和国））と提携しています。
- ※10 産業観光館：旧鏡山酒造を改修し、市民の地域産業に関する理解を深めるとともに、市民と観光旅行者の交流を促進することにより地域の活性化を図ることを目的に、地域の食材や特産物を提供する飲食・物販施設、観光案内所のほか、市民活動の拠点となる会議室やギャラリーを備える施設として整備した施設。愛称を「小江戸蔵里（こえどくらり）」として平成22年10月から指定管理者が運営しています。
- ※11 多文化共生：外国籍の市民も含め、同じ地域に住む者を同じ構成員として、文化の違いを認め合い、異なる文化や生活習慣、価値観を受容・尊重して共に生きていくことです。
- ※12 伝統芸能等：伝統行事等（※13参照）の中で、能・狂言・歌舞伎などに代表される舞台芸術や、地域の人たちが継承してきた演劇・音楽・舞踊などを指します。
- ※13 伝統行事等：衣食住、生業、信仰、年中行事などに関わる風俗慣習、民俗芸能その他の日常生活の中で生み出し、継承してきた有形・無形の伝承のこと

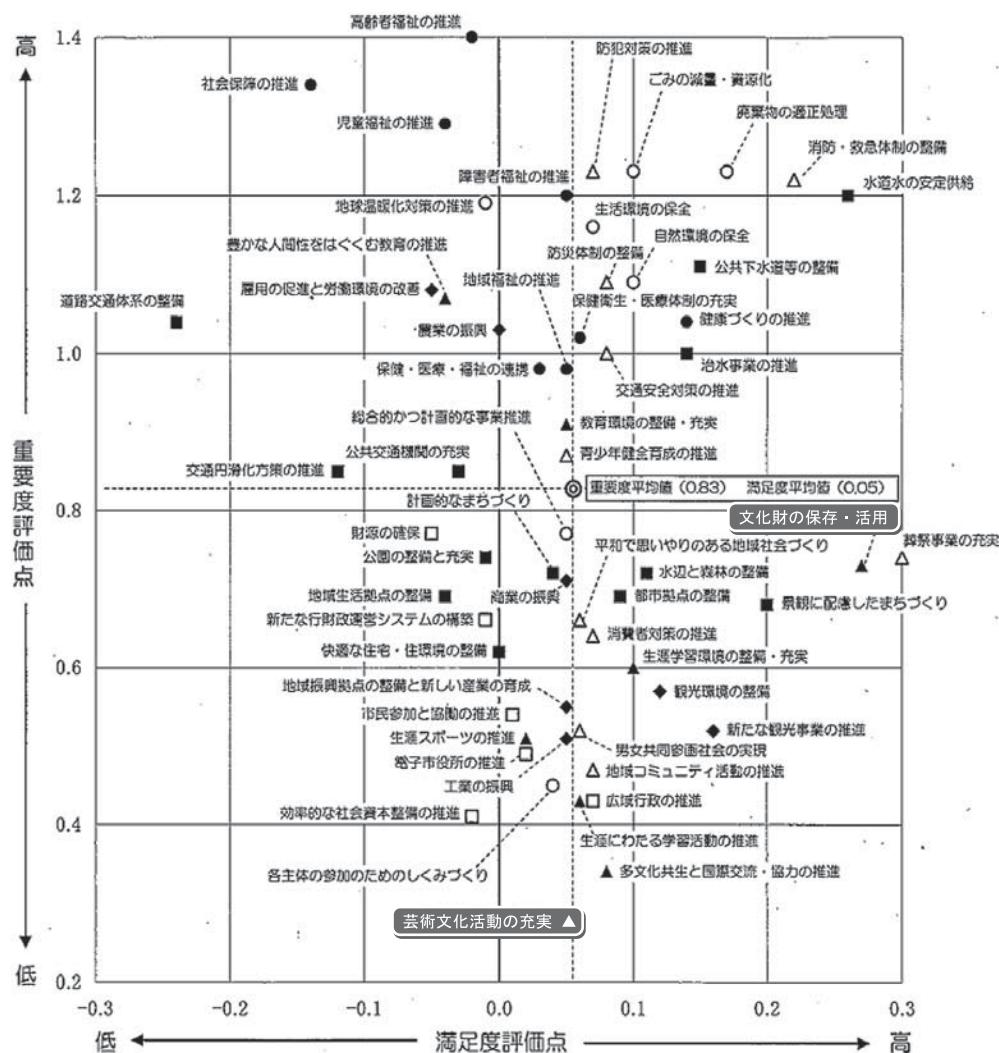
## (4) 市民の意識について

### ① 現 状

平成20年7月に実施した川越市市民満足度調査の結果において、本市の施策全体からみた重要度・満足度の比較で、「芸術文化活動の充実」については、重要度が低いと感じている市民が多い状況です。

「文化財の保存・活用」については、満足度も高く、ある程度重要であると感じている市民が多い状況です。（資料8）

資料8 川越市市民満足度調査（平成20年7月実施）度数分布図

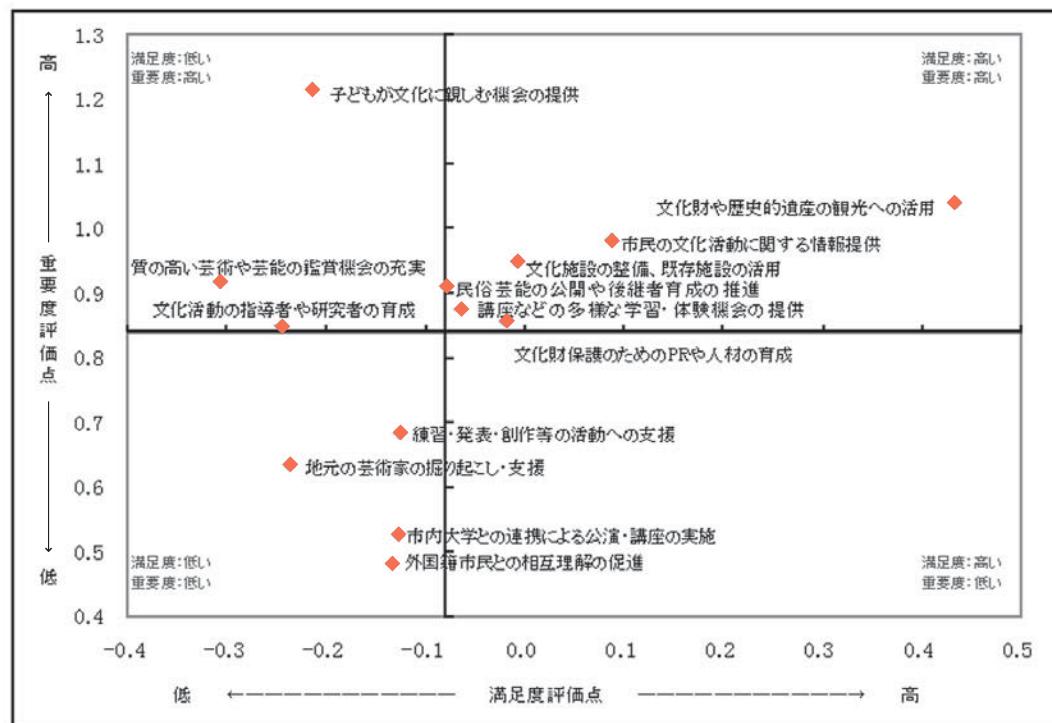


この調査は、本市が第三次川越市総合計画に基づき取り組んでいる59の施策について、市内に在住の3,000人を対象にアンケートを行い、今後の「施策の重要度」と施策の取組に対する「現在の満足度」について伺ったものです。

文化芸術活動を活発にするための施策としては、「子どもが文化に親しむ機会の提供」、「質の高い芸術や芸能の鑑賞機会の充実」及び「文化活動の指導者や研究者の育成」についての重要度が高く、満足度は低くなっています、一般的に優先度が高いと言われる状態です。

また、「文化財や歴史的遺産の観光への活用」、「市民の文化活動に関する情報提供」及び「文化施設の整備・既存施設の活用」については、重要であり満足度であると感じている市民が多いのに対し、「外国籍市民との相互理解の促進」、「市内大学との連携による公演・講座の実施」「地元芸術家の掘り起こし・支援」及び「練習・発表・創作等の活動への支援」については重要度も満足度も低くなっています。(資料9)

資料9 市民アンケート結果  
「文化芸術活動を活発にするための施策の重要度と満足度の度数分布図」



## ② 課題

本市の施策全体から見た場合、芸術文化活動の充実について、重要度が低いと感じている市民が多い状況ですが、そのような状況の中でこそ、安定・持続的な事業の実施が必要です。

また、文化芸術活動を活発にするための施策として子どもが文化に親しむ機会について、施策の充実が必要です。